

普天間飛行場全面返還合意から30年を踏まえた 市内各種団体(「チーム宜野湾」)による共同要請行動に関する意見交換会(第1回)

4月27日(月)、市内各種団体(「チーム宜野湾」)による共同要請行動に関する意見交換会(第1回)が開かれ、市内10団体代表者の挨拶、趣旨や今後の取り組みの説明、意向確認等が行われました。

**参加団体
(市内10団体)**

宜野湾市、市議会、市教育委員会、市自治会長会、市老人クラブ連合会、市女性ネットワーク会議、市商工会議所、市青年連合会、市PTA連合会、市軍用地等地主会(以上、順不同)

〇なぜ今、共同要請行動を行うのか?

1996年4月12日、日米間で「普天間飛行場の5年乃至7年以内の全面返還」が合意されました。しかし、全面返還合意から30年が経過しようとする今なお、その返還期日は示されていません。この間も事件・事故等の危険性に晒され続けているだけでなく、昨今、騒音問題などの過重な基地負担は増え続けています。

また、政府からの説明では、普天間飛行場代替施設の提供手続き完了まで、令和6年1月10日から起算して約12年を要し、部隊の移転などを考慮した上で返還時期が決まるとのことですが、言い換えれば、このままでは全面返還合意から40年を経過しても普天間飛行場が本市の中心にあり続けることとなります。

一方で、沖縄県は日本とアジアとの結節点であり、広大な普天間飛行場の跡地利用は、今後の日本経済を牽引する可能性を秘めています。こうした観点からも、普天間飛行場返還までの道筋を早期に決めるべく、市内の各種団体が連携し、宜野湾市が一丸となった「チーム宜野湾」として、普天間飛行場の一日も早い閉鎖・返還及び速やかな運用停止の実現を日米両政府に強く意思表示することが重要です。

〇今後の主な取り組み

- ・5月下旬:第2回意見交換会
 - ・7月下旬:「チーム宜野湾」結成式および共同要請行動出発式
共同要請行動(県内・東京)
- 今後も引き続き情報を発信してまいります。

問 基地渉外課 ☎内線5212

第1回意見交換会の様子



「ちょっと気になる」は大切なサインです。

「ちょっと物忘れが気になる」
「ちょっと心配…」
そんな日々のふとした気かりはありませんか?
「こんな小さなことで相談してもいいのかな?」とためらわず、お気軽に介護長寿課窓口でご相談ください。

問 介護長寿課 長寿支援係
☎893-4517

これなら持ちやすいわね。

500円
硬貨サイズ

みまもりタグを持って出かけ

子機センサー搭載
自販機やお店などが
タグの電波をキャッチ

親機が位置情報を
保護者へ発信

保護者のLINEへ
お知らせ



「ゆるやかな見守り」がある地域。
本人のお出かけの自由と家族の心のゆとりを
そっと支えます。

認知症になっても、行きたい場所があり、
会いたい人がいます。
ミマモライドが目指すのは、



道に迷う高齢者の
お出かけをサポート
ミマモライド